

問いは別の用紙にあります。また大問は全部で三問あり、【二】の問題は【一】の問いの後にあります。答えはすべて解答用紙に書きなさい。なお解答用紙は表と裏の両面にあります。

【一】次の文章を読んで、別の用紙の問いに答えなさい。(出題にあたり一部表記を改めました。)

みなさんは、水族館でアシカが字を書いたり、動物園でゾウが絵を描いたりするのを見たことがありますか。このごろ、動物に絵を描かせるパフォーマンスが、あちこちでおこなわれています。

じつさい、これまでに、チンパンジーに絵を描かせる研究が多くなされています。ひじょうに有名なのは、ロンドン動物園にいたデズモンド・モリスが、一九六〇年頃に「コンゴ」という名のチンパンジーにやらせたお絵描きの研究です。

絵を描く道具、紙とクレヨンなどを与えると、チンパンジーは一生懸命描きます。ごほうびをやらなくても、放っておいても描くし、つぎの紙をやるとまた描く。そして、何を描くのかずっと研究したら、構図のようなものを考えているようだとわかったのです。線をなぐり描きするのですが、よく見ていると、どこに描くか考えながらやっているようなのです。たとえば、円の真ん中が欠けている※バックマンのような形を描いておくと、欠けているところを一生懸命描こうとします。また、何か図形があると、その中だけに描くとか、そんなことをするのです。自分が手を動かすと何かが描ける。しかも、手を動かす場所を決めてやれば、自分の思いのところにそれを描くことができる、というところまではチンパンジーにもできるようです。

人間の子どもも、お絵描きのときに同じことをします。私も自分の孫がするのを見ていました。最初はなぐり描きです。そのうちに、ぐるぐる渦みたいなものを描くようになりました。チンパンジーもそこまでは同じことをします。

ところが、そこから差が出てきます。チンパンジーは描いたものが何か、よくわかっていないようです。一方、人間の子どもは三歳を過ぎるころから、丸を描いた中に何かを描いて、人間の顔だと言いだすのです。つまり、①描いたものは外界のもの、広い意味で外界の事物のコピーであるという認識が出てくるのです。

チンパンジーのコンゴも、似たような丸を描いて、中にチヨンチヨンをつけたようなものも描きました。しかし、自分の顔だと認識しているようすはまったくありません。それを受けて最近、京都大学野生動物研究センターの齋藤亜矢さんがおこなったおもしろい研究があります。

チンパンジーの子どもと人間の子どもに、同時に同じ②カダイで絵を描かせたのです。まず、チンパンジーの顔の絵を与えます。外側のふさふさの毛の部分が描いてある輪郭だけの絵で、顔のところには眼も鼻も口も何もありません。チンパンジーと人間の子どもに同時にそれを与えると、人間の子どもは「お目目ない」などと言いながら、目を描きます。ところが、チンパンジーはそんなことはしません。まわりの毛をなぞりながら、ぐじゃぐじゃと描くだけです。

チンパンジーには、これがチンパンジーの顔を描こうとしたものだという認識はありません。一方、人間の子どもは与えられた絵を見ただけで、これはチンパンジーの顔であり、お目目がないからくつつけなきゃと思う。③そういうところがまったくちがうということがわかってきたのです。

動物は、絵を描くという行動はいくらでもできるけれど、それが具体的に何を意味しているのかという※具象性の認識がまったくありません。ゾウの絵を描いているゾウは、自分がゾウを描いているとは思っていません。そう仕込まれているから、そういう形を描いただけなのです。描画の④Xはもっているけれど、それが何かということがわからない。

一方、人間は、描いたものが実際に外界にある何かをコピーしているものだということがわかるのです。

まわりにあるものの中で、⑤人が最初に描き出すのは、人の顔ということになっています。人の顔が形としてもつとも認識しやすいようです。それで、顔を描くようになると、こんどはさかんにパターン化した人の顔を描きます。私の孫たちもそうでしたが、よく似た図形を描いて、「これはじーじ」「これはばーば」「これは自分」と言うのです。そこでわかることは、人間は画面上に外界のもののコピーをつくることができるということです。しかも、そのコピーは外界の※普遍的な何かではなくて、⑥個別のものを表現している。つまり、これはじーじ、これはばーば、これは自分というふうに、⑦イ目的にコピーすることができるのだと認識するわけです。

技術的には同じ表現のものを、これは何、これは何と言うことは、彼らの頭の中に言語であらわされるいろいろな※概念があつて、その概念を図形化できる能力が出てきているからなのです。

それは、人間とチンパンジーとがまったくちがうところで、チンパンジーはそういうことはおそらく全然ないと思います。だから自発的に何かを描くということをしません。⑧目鼻のないチンパンジーの顔の中に目鼻を描くということもしません。

(中略)

絵を描くのは※ホモ・サピエンス⑨トクユウの技術と考えたほうがいいと思います。幼児が描きはじめるのがだいたい二歳を過ぎてから、早い子で一歳半を過ぎてからです。

その時点で子どもたちに何が起っているかというところ、言語の獲得なのです。子どもが、言語を話したとき、単語から始まることはすでにお話ししました。一歳過ぎから出てきて、一歳半になるとかなりたくさんさんの単語を知るようになります。そうすると絵を描きだして、自分の顔とか、ばーばの顔という単語が出てくるのです。

単語が形成されると同時に、その単語に見合う視覚的なイメージもいっしょになり、それがすべて単語の概念となつて脳の中に形成されるのではないかと思えます。意味づけや視覚イメージ、そういうものが全部つながって、一つの単語の概念をつくります。そして、その単語をもとに視覚イメージを引っ張り出し、⑩これは自分の顔だとか言うことができるようになるわけです。

チンパンジーが絵を描くというところにいたらなかったのは、彼らには単語がないからです。単語がないと、描いたものを名づけることができませぬ。それが、チンパンジーらしいものを描いていても、輪郭をなぞるだけで目鼻をつけられないということなのでしょう。

(岩田誠『上手な脳の使いかた』より)

※バックマン：ゲームのキャラクター。円形で、口に当たる部分が扇状に欠けている。

具象：形・姿を備えていること。具体。

普遍：物事すべてに共通すること。

概念：事物の本質をとらえる思考形式。

ホモ・サピエンス：現在の人類のこと。

【一二】次の文章を読んで、別の用紙の問いに答えなさい。(出題にあたり一部表記を改めました。)

野球部のみんなが桜田をキャプテンに選出した。

キャプテンになりそこねたレフトで四番バッターの笠原は顔を真っ赤にしてみんなをにらみつけた。

キャプテンに立候補した笠原は、もうキャプテンになったも同然と「X」をくり、余裕の笑いをみせていた。身体がでかくて腕力が自慢の笠原は、暴力をちらつかせて自分の言動を押しとおしてしまふ恐怖支配崇拝主義者だ。なにか気に入らないことがあるとすぐに暴力で「Y」をつけたがる。だから誰も面と向かつては笠原に逆らわなかった。だけど結果はたったの一票だった。

怒り狂った笠原はキャプテン選出の日から、野球の練習が終わるとほかたち野球部員を一人ずつ片っ端から「※血祭りにあげた。」※ジャイアント馬場が※ヘッドロックです！とかなんとかふざける振りをして誰かをつかまえて、そのまま相手が泣きだすまでやつつけては「※溜飲を下げた。笠原は全員を血祭りにあげたけど、ただ一人、キャッチャーの東井だけにはちよつかいをださなかった。」

東井は一年生のときに札幌から転校してきた。身体は笠原と同じくらい大きく、さっぱりとした性分で都会育ちのあか抜けた雰囲気をもっている。いいことをはつきりいうタイプだった。腕つぷしが強いだけのあか抜けない笠原は、腕つぷしが強くて弁もたつ東井に「※コンプレックスがあったのかもしれない。タイプはちがうけど二人は互いの力量を認めていて、※ソビエトとアメリカみたいに①自制心を働かせて直接つかみあいになることは避けていた。一八〇センチもある二人はぼくたちからみればまるで恐竜のようにでかかった。恐竜のケンカとなれば、少しのケガだけではすまなくなるのは目にみえている。だから二人は面と向かつてやりあうことは避けていたのだ。」

キャプテンになりそこねて「※癩癩をおこした笠原は、ほとんどの野球部員を血祭りにあげて暴れ狂うと、土曜日の午後の練習に姿をみせなかった。翌日の日曜日の練習にもやっつこなかった。※宿直だった中川先生が練習の終わりにグラウンドに顔をだし、笠原はどうした?とキャプテンの桜田にきいた。桜田は笠原が昨日の練習にもこなかったし、今日もどうして休んだのかわからないと答えた。中川先生は顔をしかめた。

「お前たちそれでいいの?二日もだまって練習を休まれてなにもいわなくていいの?みんなのチームだろうが。笠原一人が好き勝手してもいいチームなのか?四番バッターだから無断で練習を休んでもいいの?明日練習にきたらなんというつもりだ。どうなんだ、桜田。キャプテンだろうが」

「あの、いや、やつぱり、笠原は四番バッターだし、ちゃんと練習にでてくれといます」

桜田は②しどろもどろに答えた。

「中心選手だったら、チームが必要とする選手だったら、みんなできめた練習をだまって休んだとしても、ちゃんと練習にでてくれとお願ひするついでうのか?勝つためにはお前たちをなめてかかっているやつでも必要なの?そんなチームで野球やつておもしろいか?そうだとしたら情けないやつらだぞ、お前らは。やる気がなかったら野球部を辞めろと笠原にいつて「い!」

中川先生はぼくたちを軽蔑するようにみまわした。

ずばりと③道理を口にしたので、さすが大人のいうことはちがうと大いに中川先生をみなおした。さっそく三年生だけが自転車で笠原の家にてむいた。農作業の手伝いで家にいないかもしれないと思っただけど、笠原は家にいた。部屋でプラモデルを作っていると母親が笠原を呼びにいった。

「なんだよ!」

玄関にでてきた笠原は④ふてくされてしくニヤニヤ笑った。バツの悪そうな笑いではない。

「野球部のこととちよつと話があつてきたんだ。俺たちのことだから外で話そうぜ」

と東井がいい、笠原が外にでてきて東井がぼくたちの考えを伝えた。野球をやる気があるのかなのか、あるのなら休むときはちゃんと休む理由をキ

ャプテンにいえ、やる気がないのなら部を辞めろ、と。笠原は⑤一瞬うろたえたような表情をみせたけど、すぐに怒り狂つたものすごい形相に変わった。ぼくたちをにらみまわして縮みあがらせようとした。ぼくたちはひるまなかつた。全員がひとつになつていたので恐怖心はわかかなかったのだ。

「どうなんだ!」

東井は真っ直ぐに笠原と向かいあつていった。二頭の恐竜は火花をちらしてにらみあつた。ほんの短い時間だったけど、重苦しい、危険が充滿した長い時間を感じられた。どっちも一歩もひかない構えだ。東井のうしろにはぼくたち三年生が全員のいたけど、東井も笠原もぼくたちは眼中にないといつたようににらみあつている。あまりの迫力に、⑥ぼくたちの口は接着剤でくっつけられたようにピタリと閉じられたままだ。

「イ、イ、いっしょに、ヤ、野球やろうぜ!」

ふいに輪島の声が二人の間に割つて入つたので、ぼくたちはびくくりして輪島をみた。輪島のやつが野球部のことで自分の意見を述べるなどついぞなかったことだ。なにをいいたのかと、笠原と東井も輪島をみつめた。

「オ、オ、俺は、シ、試合にでられないと思っけどよ、ミ、みんなで、ケ、県大会にいつて、ユ、ユ、優勝したいんだ。ヤ、辞めて、ホ、ほしくないんだ。ミ、ミ、みんなも、ソ、そうなんだ。イ、イ、いっしょにやりたくて、キ、きたんだ。イ、イ、いっしょに、ヤ、野球やろうぜ!」

輪島がこのことをいわなかったら、ぼくたちの野球部は空中分解していたにちがいない。輪島の言葉は、俺たちみんな野球が大好きな仲間じゃないか、という強い大きな⑦くさびとなつて、笠原とぼくたちをつないだ。ぼくたちの緊張がとけていった。⑧全員の目つきがおだやかになつていった。

それでもこの出来事は笠原にとつてはものすごい屈辱だった。怒りをこらえて顔が真っ赤になった。

「ちよつと熱っぽくて調子が悪かつただけだよ。熱がさがつたら練習にでるよ。わかつたらさっさと帰れ!」

笠原は捨てゼリフを吐き、玄関に入つて乱暴にドアを閉めた。

帰り道、ぼくは自転車を走らせながら⑨うれしくてしかたがなかつた。笠原が戻つてくることになつてほつとしたけれど、そのことがうれしかったのではない。輪島のことを無性にうれしかった。補欠の補欠だけど、輪島は立派な野球部員だとみんなが認めた日だった。

(川上健一『翼はいつまでも』より)

※崇拝…心から尊び敬うこと。

血祭りにあげる…ここでは、暴力をふるうこと。

ジャイアント馬場…プロレスラーの名前。

ヘッドロック…プロレスの技の名前。

溜飲をさげる…不平・不満・恨みなどを解消する。

コンプレックス…劣つていることを気にする気持ち。

ソビエト…現在のロシア連邦共和国の前身の国家。

癩癩…気みじかで、少しのことにも激怒しやすい性質。

宿直…勤務先に交代で泊まり、夜の警備にあたる人。

問1 ——部㉔から㉖のカタカナをそれぞれ漢字に直しなさい。

問2 ——部㉑「描いたものは外界のもの、広い意味で外界の事物のコピーであるという認識」とありますが、これは誰のどういう認識ですか。「誰」に当てはまるものを次のA群の中から、「認識」の内容として最も適当なものを次のB群の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

【A群】ア コンゴ イ 自分の孫 ウ チンパンジー エ 人間の子ども オ 人間の子どもとチンパンジー

【B群】(1) 自分は身のまわりの何を描きたいのかがわかっているということ。  
 (2) 自分は身のまわりのものが何かをわかって描いているということ。  
 (3) 自分は身のまわりの何を描くべきなのかわからないということ。  
 (4) 自分は身のまわりのものを描いていないことがわかるということ。  
 (5) 自分ではわかっていないが、身のまわりのものを描くということ。

問3 ——部㉒「そういうところがまったくちがう」とありますが、「そういうところ」とはどいうところですか。七十五字以内で説明しなさい。(句読点も字数にふくみます。)

問4  Xに入る言葉として最も適当なものを、次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 目的      イ 場所      ウ 材料      エ 技術      オ 意味

問5 ——部㉓「人が最初に描き出すのは、人の顔ということになっています」とありますが、これはなぜですか。「から。」につながる形で、二十字以内で抜き出しなさい。(句読点も字数にふくみます。)

問6 ——部㉔「個別のものを表現している」とありますが、「個別のもの」の具体例として最も適当なものを、次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 「牛」ではなくて、「牛乳」  
 イ 「年寄り」ではなくて、「老女」  
 ウ 「幼児」ではなくて、「私の妹」  
 エ 「お弁当」ではなくて、「卵焼き」  
 オ 「自転車」ではなくて、「乗り物」

問7 ——部㉕「目鼻のないチンパンジーの顔の中に目鼻を描くということもしません」とありますが、これはなぜですか。本文中の「(中略)」の部分より前に述べられている筆者の考えを、五十字以内で説明しなさい。(句読点も字数にふくみます。)

問8 ——部㉖「これは自分の顔だとか言うことができるようになる」とありますが、これはどのようになっているのでしょうか。順序にしたがって、六十五字以内で説明しなさい。(句読点も字数にふくみます。)

問1 Xに入る言葉として最も適当なものを、次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 腹    イ 鼻    ウ 帯    エ 木    オ 高

問2 Yに入る言葉として最も適当なものを、次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 話    イ 事    ウ 目    エ 手    オ 火

問3 部①「自制心」とはどのような心ですか。最も適当なものを、次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア まわりの人を気づかう心    イ 他人を制しようとする心    ウ 自分のことを反省する心  
エ 自分の感情をおさえる心    オ 自分の本心をいつわる心

問4 部②「しどろもどろに」を言いかえたものとして最も適当なものを、次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア ぼそぼそと    イ のろのろと    ウ あたふたと    エ きつぱりと    オ ぼんやりと

問5 部③「道理」とありますが、この場合の「道理」とはどのような内容ですか。五十字以内で説明しなさい。(句読点も字数にふくみます。)

問6 部④「ふてぶてしくニヤニヤ笑った」から、部⑤「一瞬うろたえたような表情をみせたけど、すぐに怒り狂ったものすい形相に変わった」へと笠原の態度が変わっています。この時の笠原の心情変化を説明したものはどれですか。最も適当なものを、次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 仮病を使って練習を休んでいたことをごまかそうとしたが、厳しくせめられて危ないと感じ、力で負かそうとしている。  
イ 自分のことをみんなに心配してもらえてうれしく思ったが、仲間の団結に驚き、自分の正当性を主張しようとしている。  
ウ 仲間をもっと困らせて仕返しをしてやろうと思ったが、逆に強く問いつめられたことから、弱みを見せまいとしている。  
エ 自分がいないとみんなが困るのだと思って得意だったが、予想外の言葉に戸惑い、プライドが傷ついて腹を立てている。  
オ 自分の好きなことをしていたのできげんがよかったが、予想外の攻撃にあわてて、より厳しい攻撃をしようとしている。

問7 部⑥「ぼくたちの口は接着剤でくっつけられたようにピタリと閉じられたままだ」とありますが、この時のぼくたちの様子を説明したものはどれですか。最も適当なものを、次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 二人のどちらに味方する方が有利なのかをまよって、どちらにも味方することができない様子。  
イ 二人の問題なので他の者はそばで見守るべきだと思い、成りゆきにまかせようとしている様子。  
ウ 二人の一步も引かない緊張感におされてどうすればいいのか分からず、身動きができない様子。  
エ 二人に余計なことを言っただけでなぐられることをおそれ、目立たないように息をひそめている様子。  
オ 二人のつくる重苦しい空気から早く解放されたくて、とにかく時間をかせこうとしている様子。

問8 部⑦「くさびとなって」とありますが、ここではどのような意味ですか。最も適当なものを、次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア なぐさめとなって    イ きずなとなって    ウ きずあととなって  
エ わざわいとなって    オ わだかまりとなって

問9 部⑧「全員の目つきがおだやかになっていった」とありますが、それはなぜですか。七十字以内で説明しなさい。(句読点も字数にふくみます。)

問10 部⑨「うれしくてしかたがなかった」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを、次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 笠原が部の練習に戻ってきてくれることが決まったから。  
イ 輪島が勇気を振りしぼり、もう一度自己主張をしたから。  
ウ 笠原と東井の対立に困っていたが、場がおさまったから。  
エ 輪島の言葉が野球部員たち全員の心に勇気を与えたから。  
オ みんなが、輪島は大切なチームの一員だと気づいたから。

### 【三】作文の問題

【二】の本文の物語に登場する「笠原」を、どのような人物だとあなたは思いますか。三百字以内で自由に書きなさい。